

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの役割を理解した上で住み慣れた地域で入居者の望む生活が続けられるような理念を作りあげた。	住みなれた地域住民との交流の下で健康を重視し役割を目指したサービスが出来るように工夫。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が就任したばかりでさらなる努力が必要と毎朝、入居者と読み上げ実現に取り組んでいる。	管理者自身はもとより職員全員が理念を理解し達成すれば新たな理念にも取り組みたい。入居者が安心した暮らしが出来るよう又わかりやすい言葉で説明している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用案内時や入居者の家族によく理解できるように説明する。見やすい場所に掲示している。	立地条件が近隣と接しやすい場所なので日々の生活でお互いもっと交流し、さわやか広報誌を作りたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所にいつでも立ち寄ってもらえるように、笑いの絶えないホームにしている。	共有できる楽しみを見つけて参加できるきっかけ作りをしたい。出会う人には必ず挨拶している。毎週水曜日の民舞活動近所の方も参加している。農作物の差し入れもよくある。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の行事、まつりに積極的に参加し、本体である特養ホームの祭りや行事に参加している。	施設の夏祭りが盛大に行われている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していないが声かけはしている。		地域の老人会とのふれあいの場に積極的に参加して認知症の理解を深めていきたい。職場体験の実習も受け入れたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の理解を深め評価した事で、日々の支援方法を職員同士で話しあっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでない。		ホームの存在を地道にアピール途中で地域全体の高齢者に対する理解に繋がるように努力したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の受け入れの情報や相談等で高齢福祉課や地域包括支援センターを訪問し情報交換している。		直近の役場に折々足を運び痴保予防に関する行政としての対策に情報交換を行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料やパンフレットを利用して制度の理解に勤めたい。相談の窓口にもなる為にまずスタッフが理解していきたい。現在該当者はいない。		常に地域密着型のオープンなホームで認知対応にも窓口的な存在を強く持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の場をもうけ、入居者に虐待がないように、防止徹底を指導していく。		勉強会参加により認識を深められるようまたスタッフのケアにも、お互いに関心をもってあたっていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約をするときに契約文を十分に理解できるように、説明し理解を得ている。質問にも適切に説明していく。</p>	<p>時間がたつにつれ忘れてたり契約の改訂をする場合があるので、利用者の状態変化を本人を交えて家族等に再確認していくようにしていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>朝礼を毎朝入居者で行い、意見や不満に耳を傾けどんな小さな事でも目を向けて、運営に反映させていきたい。</p>	<p>特定の職員、介護者の中に意見が埋もれないように、1度出た意見は日々のケアにいかしていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>電話での報告や面会時に報告し、金銭管理は入居時に確認をとり定期的に報告を家族に合わせておこなっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に入居者の報告をするなかで、家族側からの率直な話ができる雰囲気作りをする。話をよく聞いてくれる職員が多い。他の職員にも共通理解をさせる。話せない場合は意見箱を利用してもらう。</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の定例会の中で話やすい雰囲気作りをし、意見を否定するのではなく受け入れの姿勢でのぞむ。</p>	<p>月に1回程度に定例会行っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者や家族の状況にあった勤務変更も柔軟に行えるように、勤務体制を調整している。日ごろから職員間のいい関係作りをしていきたい。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の不足からの配置移動等はやむえなところもあり、入居者に影響をあたえないように配慮している。前任の方の話も笑って言える雰囲気を作っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本体の施設の計画する研修、勉強会への参加をしている。まだ全員が研修に行けていないところがあるので。もっと学ぶ機会があったらいいと思う。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入しているので、管理者会議に交流の場を通じて相互の訪問等につなげていきたい。</p>	<p>他事業所の訪問は受けました。今後近隣の同業者のホームとの交流を予定したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスの軽減の研修講習に参加している。本体である特養の職員のボランティアの受け入れで楽しくすごしている。</p>	<p>7月に研修会があり参加予定。民舞や三味線の指導があり利用者と一緒に楽しくすごす時間がある。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の勤務状況や力量等を評価し、時には問題点や意見をきいて励ましたり、アドバイスがなされている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者のアセスメント情報を把握し本人の生活状態を確認しながら、本人のペースに合わせて接している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居までに本人と家族にいつでも、訪問して時間をかけて相談できるようにしている。本人や家族からの意向は職員全体で受け止め、いっしょに方向性を話合う。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と本人の意向、身体状況を把握して現在何に困っているかそれによってどんな支援が必要か見極め。他のサービスの情報も提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して生活に馴染める様に、家族の訪問を何度も促し家族もいつでもこれることで本人にも安心してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人一人の人格を尊重し、ホーム生活を通してお互いの能力を生かした役割分担を行い共に協力して、支え合う関係を築いている。		入居者の得意とするものを把握し教えてもらうという、姿勢でのぞんでいる。本人の生きがいにもなっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人が抱えている問題を職員だけでなく、家族とも本人の思いと一緒に協力して考えるように支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の必要なものは、家族に準備させるようにしている。出来るだけ本人との会話をもたせ関係が疎遠にならないようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者がこれまで慣れ親しんだ人の話や、場所の話は話題の中にもと切れることのないようにコミュニケーションを図っている。		外出の機会にその場所を訪問したりドライブしたりの目的意識をもって対応している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士上手く馴染めない方には、職員が補助役になって、孤立しないように雰囲気づくりをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去するときに相談があればいつでも、お受けすることを伝え、入居者との関係がある場合は連絡できるよう確認を取っている。		他施設への希望があれば情報提供する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での本人の意向希望を聞き、家族も含めたその人らしい生活を前提として検討している。		入所時の相談や入居後の生活で希望を聞き、観察のなかで検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人・家族から生活歴や趣味・嗜好・性格の情報の聞き取りしている。担当したケアマネやかかりつけの病院からの情報収集も行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の関わりで一人一人の状態像をつかみ、本人の持っている能力を把握し、本人にも聞きながら本人に合った支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思い意向をもとに、望む生活ができるようにケアスタッフを含め主治医・他関係者の意見も確認し自立支援に向けた介護計画を作成した。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が本人に適しているかを定期的に確認し、急な変化があれば合わせた計画の変更を行うように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で、心身の状態変化や言動の変化を介護記録に常に記録し申し送りで共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族がいつでも外泊や外出の希望があれば、柔軟に対応している。また面会時間も柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の自治会等の関わりが積極的に行われていない。避難訓練は嘉手納消防所の協力で定期的に行われている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退去後他のサービスを希望される入居者や当事業所への入居を希望する際必要に応じて他のサービス事業者との連携を取っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年から嘉手納町の包括支援センターが直営になり、権利擁護についても相談したい。現在利用者はいない。運営推進委員会の参加も依頼する。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医を継続し、事業所との連携もはかり適切な指示を受け家族も協力し支援している。		

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		入居者の健康管理を行っている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		入居時に終末期についても話し、確認をとっている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		入居時に家族・主治医の連携体制の確認し、ホームでできること家族で行うことの確認はまだ不十分である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		現在の状況における情報提供を行うとともに、いままで関わった支援を元に環境の変化で精神的な不安が予測される。十分な話し合いをし協力する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の性格や病状を把握しプライドを傷つけない対応を心掛けている。本人のいかなる情報も守秘義務を守る。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ホームでの生活のなかで、入居者個人の能力を把握し押し付けのないように、質問内容や選択の仕方を工夫して自己決定できるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人の居心地のいい場所を尊重し、自由にあたりまえの生活ができるように支援している。	自分の居場所はほとんど決まっていて、自分のペースで行動している。しかし見守りの範囲は広い
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に合わせた服装や、習慣にしていた髪の設定を行っている。家族とともに行きつけの美容室への外出もしている。	家族が美容師をホームにつれてきてカットすることもある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の事前準備の野菜繙い等を利用者の能力に合わせて職員の見守りの中包丁で刻んだり、本人達も一緒に作ったと言う意識をして、いただく	決定したメニューをボードに表示し、朝・昼・夕の食べる物・食べた物の理解・把握を促す支援をしたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在利用者の中に食の細かい方がいて、個人用で(高カロリー飲料)を預かり、本人要求の元、1日3本まで限度として楽しみにして、いただいています。	

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の中で自己排泄習慣の無い方への声掛けし誘導したり、尿意の感覚が弱い方は水の音で尿意を誘ったりしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や、傾眠されている方は、時間をずらしたり、又利用者によっては好みの服を聞いて準備しています。		残存能力に合わせて、個々の入浴支援に努めながら、問題訴え(かゆみ・痛み等)に対してカウンセリング等を常に対応しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は出来るだけホーム活動やレクを楽しんだり工夫し夜に安眠できるようにしています。個々においては、体調等に合わせ、日中の傾眠もしてもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人1人の趣味に応じて、花札・ぬり絵・民謡の音楽を流して、リラックスしてもらっています。		個々の能力に応じて自己の後膳や洗濯等のホーム活動をしたり、民舞・手芸・レク等を楽しんでいます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理の出来る方は、個人管理してもらい、その他の方は、出掛ける時に、預かっている小遣いの中から金額を決めて、買い物をしてもらっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の体調・天候を考えて、庭園の水巻きをしながら、花を見たりと、外の空気に触れて気晴らしをしています。		個別の訴え支援に対し、体調・天候に合わせて支援しています。(理髪・理容・衣服の買い物・散歩等)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に季節に合わせて計画し、手作りお弁当や外食にしたりと、浜下りや花見・地域のお祭り等に出かけています。		

記入日:平成20年7月8日

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人による電話希望した場合は、家族の就労時間等に配慮しながら電話で話してもらったり、又形に残る手紙をお願いしたりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が訪問してきた場合、できるだけ利用者本人と雑談・会話が出来るように席を設け雰囲気作りをしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険な物・場所は出来るだけ改善・排除し、常に目配りをして、拘束はしていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けてなく、ドアを開けると音がするようになっています。いつでも、家族・お客様の出入りが出来るようになっています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の居室に入る場合は声かけやノックをして入室しています。又外へ出ようとする利用者もいるので、常に名前を呼んだり、所在の確認をしています。		徘徊・エスケープ等に関する対応は常に連携・目配りを重視しています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者個々に合わせた物品の管理支援を行っている。薬の管理は職員が管理している。		個人の部屋に香炉のある方は何人かいますが、ライターの管理は職員がしている。居室の個々の物を動かしても不穩になることある為工夫し対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を職員皆で把握し個々の動きを常に見守りしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり読んで理解はしているつもりですが、訓練の実施をしたことがない。		今後応急手当を始め、訓練の実施・勉強会等がしたいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームで催しがある場合、隣近所の方を招いて、お年よりがいることを知ってもらい、何かあった場合の協力支援をお願いしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状況からリスクが予測される時は早めに、状況の報告をし検討会をするようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定・毎食の摂取量・排泄等を記録し、日頃との些細な変化も見逃さず・職員同士で共有し、早め早めの対応に心掛けています。又母体ナースの指示を仰いだり、HP受診対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬のセット箱に処方箋を貼って、いつでも確認ができるようにしています。又前日の排便の状況を確認し、便秘・下痢の状況によっては調整しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として、水分補給をこまめに促し入居者の好物、便通を良くする飲み物を用意する。便秘が2日続いた時に主治医の指示する下剤を対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアを促し、誘導見守りしながら行っている。		夜間は義歯を取り外し、義歯洗浄している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分、食事量のチェックを記録。食事量の違いは盛り付け、おにぎり、おかゆ、などを作り配慮している。食堂テーブルに急須をおいていつでもお茶が飲めるようにしている。		栄養バランスのある献立表を作り摂取量の(カロリー)チェックにも努めたい。特養の管理栄養士との連携もはかっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体の特養との連携でインフルエンザ予防注射は、毎年入居者職員は受けている。また入居者の家族へも情報提供し感染予防に努めている。		感染マニュアルはあるが、定期的に読みあわせが必要であり強化し、認識していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は洗剤で洗い、食器乾燥機で仕上げる。台所では調理時台所用のエプロンを使用し、食材についてはその日の残食物は、その日で処分している。		作り置き食材からの感染中毒予防の為、きちんと処分するよにしている。(季節の考慮もしている)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅地内の家庭的玄関である。玄関には表札をつけスタッフと利用者で手入れしている。花壇があり季節ごとの花を食卓に飾り室内外でも楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間の照明で、テレビ・ラジオの音量も要望を聞いてあわせている。食卓、ソファ、畳間の共有場も充分確保されその場から庭を見ることもでき、お天気の確認もできる。		広さとしては不十分な所もありますが、いろんな所を利用し手工芸作品、行事写真など展示し利用者、家族とともに馴染みの工夫をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座椅子、ソファ、ホールの一人座り、2~3人座りのソファと多種のイスが設置。一人穏やかに過ごされたり、2~3人ですわり会話、テレビ観賞と自由に行動できる配慮がされている。		

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、洋たんすは施設提供であるが、概ね状態像に応じそれぞれ使い慣れた物を持ち込んでいる。仏壇で不安解消されたり・家族の写真を飾ったりと家庭的な雰囲気を感じさせている。		各々の手工芸作品や表札を貼り付け居室がわかりやすいように工夫している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気湿気を配慮しクーラー暖房の切り入れを調整し、窓の開閉に心がけている。		出来るかぎり自然の風を日中に入れ臭気のこもりがないようにしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター使用やてすり設置、すべり止めの工夫をしている。また縁側の上り下りの危険があるので手引き誘導している。		縁側に物干しもあり一人で移動できるように工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の認知度の状態を把握し見当識の著明な入居者の表示を見やすい場所に設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に季節の花木があり、芝の広場、縁側などがある。		花壇では植え替え、水まき活動、芝では歩行訓練、縁側では日なたぼっこ夕涼みをしています。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(さわやかホーム 比謝川の里)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

週に2回ボランティアを招いてのレク活動(民舞・三味線)又行事(クリスマス会・母の日会)地域家族の方にも参加して頂き、沢山のの方々との交流による利用者の孤立解消に努めている。
また、認知症について地域、家族の皆様にも少しずつ理解して頂けるように頑張っています。